

yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No.108
平成20年1月15日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

情報モラル(3)

情報教育、というのは、人為的な情報を扱う上での「相手意識」を学ぶことです。

情報、特にこの「人為的な」情報では、必ず送り手と受け手がありますので、自分が送り手になったり、受け手になったりしたときに、どのように判断し、情報を扱えばいいか、その際、情報の向こうにいる「相手」をしっかり意識して判断し、行動できることを学びます。

情報モラルの指導とは、情報教育のうちでも、情報を扱いながら、自分自身をも含めて、「誰かをイヤな思いにさせたり、困らせたりしない」術(すべ)を身につけられるようにすることです。

ここでまずインターネットを思い浮かべるのは、今やインターネットは、携帯電話のメールまでも含めて、誰もが簡単に発信できるツールであることが大きいと思います。

受信では、インターネット以外にも、テレビやラジオ、書籍やポスターなど、実に様々なメディアを通して行われますが、インターネット以外で一般の人たちが発信することは難しいことです。

なぜ、インターネットが子どもたちの情報モラルとして問題が表面化しているかと言えば、ここでの情報の受信や発信が、大人の知らないところ、判断の及ばないところで行われている場合が少なからずある、という点にあります。

かと言って、電子メールや、インターネットの掲示板を知らない子どもたちに対して、いきなり「文字だけのコミュニケーションは・・・」などと切り出しても、イメージできることが少なく、結果、何の教育、指導かわからなくなります。

まず、先生方をお願いしたいのは、子どもたちの実態を知ることです。その上で、子どもたち自身が、自分の問題として考えることができるような教材を使って授業をするのがいいと思います。具体的には、別項にてご紹介させていただきます。

もう一つ、インターネットに関しては、家庭での使い方が重要なポイントになりますので、保護者の方々にご理解いただくことも大切です。学校では、フィルタやセキュリティシステムである程度は守られていますが、学校外での使用については、家庭の環境が大きく影響してきます。家庭でのインターネット利用について、ルールを作って、それを守るという習慣をつけていくことです。

先にご紹介した「キックオフガイド」には、保護者向けのチェックシートがついています。これなどを参考にされるといいと思います。

ここには、先生向け、子ども向けのチェックシートもありますが、とりあえずここでは、保護者向けのものをご覧ください。